

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を注意するために、誤った取り扱いをすることを想定された内容で「警告」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
注意：人が傷害を負う可能性および物の損害のみの発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
 図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
 図の中や近傍に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

- ### 警告
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の遮音物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- ### 注意
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - 自然排気型のストープを使用するときは、排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

注意

- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
指の怪我を防ぎます
- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは27.5kgの重さがあります

取り付け上のお願

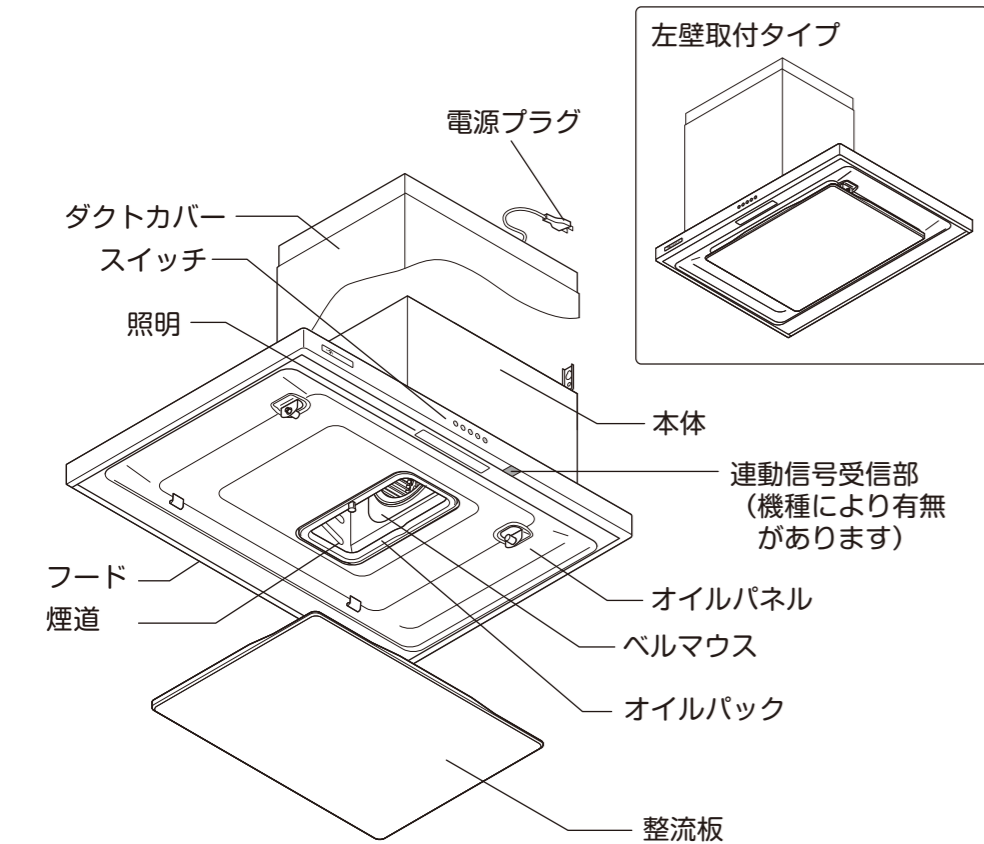
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的な資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事(設置のための下地工事等)
 - 配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)
 - 管工事(ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等)
 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建築工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを50mm以上の不燃材、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理器はレンジフードの前面より手前にはみ出さず設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m²/h時50Pa以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効率をいじめるか低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

取り付け前の調査と準備

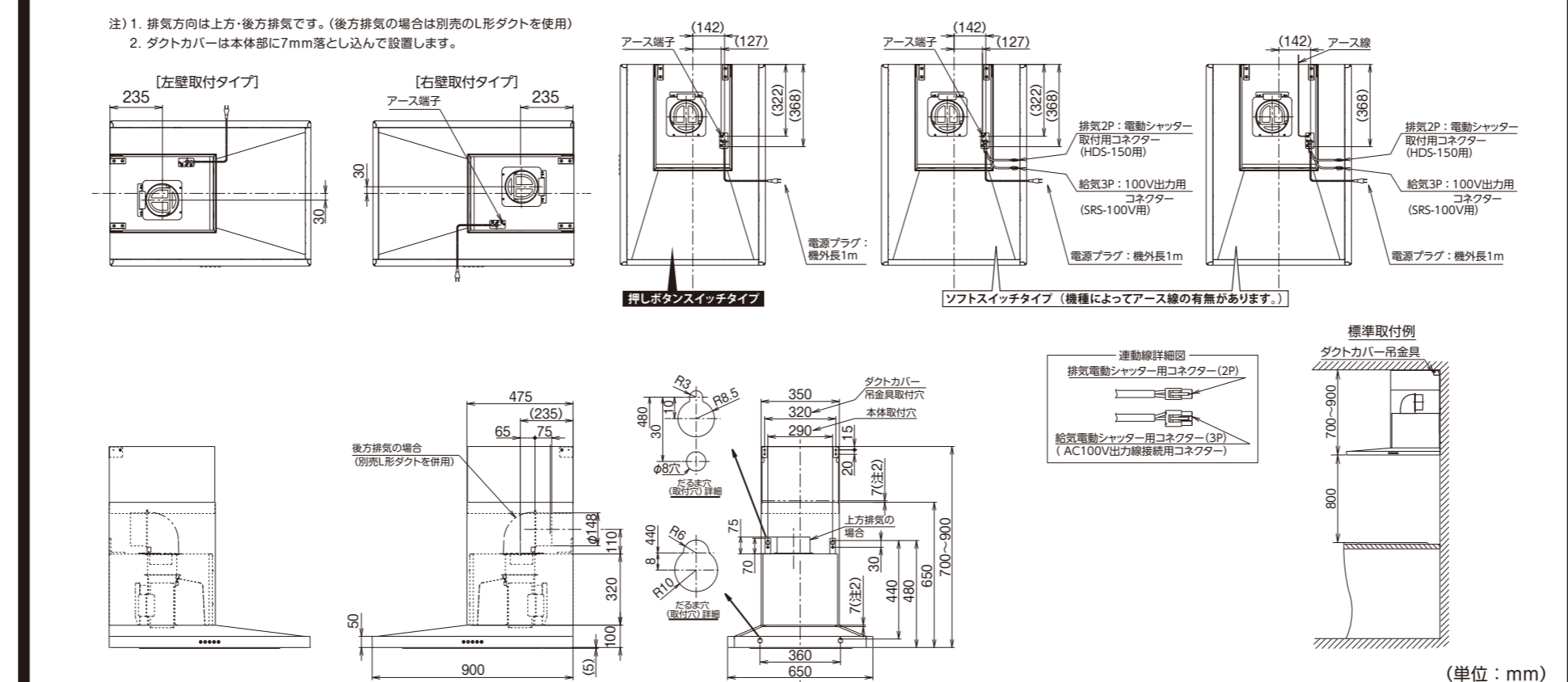
- ### 警告
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
 - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火するおそれがあります
- ### 注意
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
指の怪我を防ぎます
 - レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 1 取付面の強度確認
 製品を支える強さが必要です。 **製品質量 27.5kg**
- 板厚の場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
 - 板厚が20mm未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
 - 板厚が20mm以上の場合には補強板の必要はありません。
 - コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

- ### 土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
- ### 別売部品の準備
- 排気工事に伴う別売部品の準備が事前に必要です。
- ### 標準取付寸法
- 本製品の標準取付寸法は、調理器の上面からレンジフードの下端まで80cmです。
 ※火災予防条例では、グラスフィルターの下端が調理器の真上80cm以上必要となります。
- ### 電源コンセント・ブレーカー
- 電源コンセント・ブレーカーは、専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。
- お願い**
 必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品

- 座付ねじ(φ5.1×45) 8本
本体およびダクトカバー吊金具の取り付けに使用します。
- 化粧ねじ(M4×8) 2本
ダクトカバー内部スライド部の固定に使用します。
- ソフトテープ 1本
排気口とダクトのすきまをふさぐのに使います。
- 排気口 1個
本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。
- 引掛ねじ(φ5×35) 2本
本体の取り付けに使います。
- ダクトカバー 1個
ダクト取付部をカバーします。
- ダクトカバー吊金具 2個
ダクトカバーの取り付けに使います。

取り付けかた

1. 付属品の確認

- ### 注意
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 付属品を確認します。
 梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。
- お願い**
- 保護用のクッション材と、固定用テープはキズ、破損防止のため、「8. 固定テープの取りはずし」までははずさないでください。(図1-1)
 - 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
 - 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

- ### 警告
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の遮音物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けると漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
- ### 注意
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- 1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的な資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。
 また、コンセントの位置を確認してください。(「6. 電気配線」図6-1参照)
- 2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。(コンクリート、タイル、土壁の場合)(図2-1)

3. 排気用部品の準備

- ### 注意
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- お願い**
- レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理室内に落下することがあります
 - キッチンパネルの上端部にレンジフード下部壁面に入れて設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに埃み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります

4. 本体の取り付け

- ### 注意
- レンジフードの取り付けは、十分な強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
- 1 だるま用座付ねじをねじ込みます。(図4-1)
- 1) 製品寸法図と裏面の型紙を参照し、上側のだるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2) 下側のだるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の引掛ねじ(φ5×35)2本をねじ込み、しっかりと締め付けます。
- ※引掛ねじが壁に食い込みない程度に締め付けてください。引掛ねじが壁に食い込んでしまうとフードが取り付かないおそれがあります。
- 2 本体を引掛ねじで固定します。(図4-2)
- 取り付けた座付ねじ2本と引掛ねじ2本に本体のだるま穴を引掛けた後、上側の座付ねじ2本をしっかりと締め付けます。
- お願い**
- 上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
 - 取り付けた後、本体が確実に引掛けたことを再度確認してください。

5. ダクトと排気用部品の接続

- ### お願い
- ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじの使用範囲以内に固定してください。(図5-1)
- 1 排気口を取り付けます。(図5-3)
- 本体排気口取付位置に取り付けた座付ねじ2本をはずした後、L形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした座付ねじ2本で取り付けます。
- ※取り付けた後、排気口のねじは取りはずさないでください。
- 2 風漏れ防止のテーピング(アルミテープ)をおこないます。(図5-3)
- 3 排気口設置面の漏風確認のお願い(図5-4)
- 排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面(製品天板等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。

6. 電気配線

- ### 警告
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
 - 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って法的な資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
- 1) アース(D種接地工事)を取ります。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- お願い**
- 電源は専用のコンセント(2極差込接続器 15A、125V)およびブレーカーを設けてください。
 - 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
 - コンセントは電源コードの長さや向きを考慮し、右側の斜線範囲内に設置してください。(図6-1)
 - 必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。

7. ダクトカバーの取り付け

- 1 取付位置を確認します。
- 製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊金具の取付位置を確認します。(図7-1)

2. ダクトカバー吊金具を取り付けます。(図7-2)

- ダクトカバー吊金具を図のように付属品の座付ねじ(φ5.1×45)4本で取り付けます。
 ※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けしてください。

3. ダクトカバーを取り付けます。(図7-3)

- ダクトカバーを壁際まで持っていき、フードの溝に置きます。
- お願い**
- ダクトカバーを取り付ける際、ダクトカバー下端でフード上面を傷つけないように十分注意してください。

4. ダクトカバーを固定します。(図7-4)

- ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8)2本でダクトカバー吊金具に固定します。(図7-4)

5. 傷防止用テープを貼ります。(図7-5)

- ダクトカバーがしっかり取り付いたことを確認し、フード天面の傷防止用テープをはがします。(図7-5)

8. 固定テープの取りはずし

- 1 整流板をはずします。
- ※保護用クッション材、固定用テープをはずしてください。
- 1) 整流板を両手で支え、少し押しあげるようにして整流板の左右にあるストップバーを押し上げます。(図8-1)
- 2) 整流板を両手で支えながら、下へゆっくりおろします。(図8-2)
- 3) 整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具から整流板引掛金具をはずします。(図8-2)
- ※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

9. 試運転

- ### 注意
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
 - 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
 - 必ず最終設置した状態で試運転してください。
 - 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
 - 異音、振動がないことを確認してください。
 - 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
 - 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
 - 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に戻り付けてください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

1. 整流板をはずします。(図8-1)

- ※保護用クッション材、固定用テープをはずしてください。
- 1) 整流板を両手で支え、少し押しあげるようにして整流板の左右にあるストップバーを押し上げます。(図8-1)
- 2) 整流板を両手で支えながら、下へゆっくりおろします。(図8-2)
- 3) 整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具から整流板引掛金具をはずします。(図8-2)
- ※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

2. オイルバックとヘルマウスを固定しているテープをはがします。(図8-2)

- ※固定テープをはずした後は、はずした部品をもとどりに取り付けてください。

9. 試運転

- ### 注意
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
 - 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
 - 必ず最終設置した状態で試運転してください。
 - 運転時、各連動の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
 - 異音、振動がないことを確認してください。
 - 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
 - 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
 - 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に戻り付けてください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

(製造元) 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号

TEL 042 (768) 3754 (営業部)

原寸大型紙

(寸法単位はmm)

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

お願い

この型紙は湿気の影響で2~3mm誤差が生ずることがあります。
寸法をお確かめの上ご使用ください。

